

南房総の近世地域教育を担った郷学

しとくどうかんけいしりょう
至徳堂関係資料



至徳堂の扁額



至徳堂で使用されたテキスト



至徳堂蔵板『小學吟嘆』

至徳堂は、高柳村の鈴木元朋らによって、文化14年（1817）に建てられた近隣の庶民教育のための郷学です。教場は高柳村塚越（現在の市内高柳字塚ノ越）にありました。文政6年（1823）の扁額には「金田庄覺」、文政7年の扁額には「至徳堂」とあり、ふたつの名称が併用されていたようです。「教授」「助教」「館頭」「館正」などの職掌があり教育機関としての組織が整えられていました。当時の南房総における重要な郷学として多くの子弟を育て、木更津の庶民教育に貢献しました。

県指定文化財：有形文化財（歴史資料）

指定年月日：平成14年3月29日・平成20年3月18日（追加）

所在地：木更津市太田2-16-2（木更津市郷土博物館金のすず）

所有者：木更津市

員数：220点

公開・非公開の別：非公開
